

# 2025年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

【記：山口県医師会副会長／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

2023年の夏は、その時点で観測史上最も暑い夏でしたが、シーズン前の定点木の観察では、意外にもスギはかなり少ない着花状態であり、2024年のスギ花粉飛散総数の実測値は県内測定機関の平均値として1,940個/cm<sup>2</sup>程度で、平年値（直近10年間の平均値：3,260個/cm<sup>2</sup>）の60%弱の値となりました（図1、2）。一方ヒノキも、542個/cm<sup>2</sup>（平年値1,920個/cm<sup>2</sup>の30%弱）と、非常に少ない飛散総数でした（図1）。その結果、今シーズンを迎えての平年値は、スギが3,200個/cm<sup>2</sup>（図2）、ヒノキは1,805個/cm<sup>2</sup>となります。

さて、2024年の夏も、前年をさらに上回る観測史上最も暑い夏となりました。今シーズンの定点木の観察では、スギは昨シーズンと比べ、非常に多い着花状態にあり（図3～6）、従来どおりの方法（1次回帰）で予測したところ、スギは4,400個/cm<sup>2</sup>程度の総数となりました（図7）。しかし、近年はスギ総数の実測値は予測値を上回ることが多いことから、より相関の高い指数関数で計算してみると、その値は5,100個/cm<sup>2</sup>程度となりました（図8）。

また、ヒノキの予測はこの時期には困難ですが、

前年と比べると花芽はかなり目立つように思われました（図9、10）。

2023年のシーズンは、スギ、ヒノキともに、史上最多の飛散総数を記録しました。そのため、2024年のシーズンは前年夏の猛暑にもかかわらず、スギ・ヒノキともに花粉産生を小休止したもののと思われます。今シーズンは休憩も終了し、前年夏の気象条件を反映する、相当数の花粉を飛散させる態勢を整えているようです。

秋にもスギ花粉が飛散し、その総数は、その地域の翌年の本格シーズンのスギ花粉総数と相関すると言われています。当測定点で12月31日までに捕集されたスギ花粉数の総数は、史上最多の飛散となった2023年の前年の2022年が59個、2023年が13個でしたが、この秋は11月26日までで57個です。12月31日時点でどのくらいの総数になるのでしょうか。

今シーズンは、マイコプラズマ感染症が8年ぶりの大流行となり、猛威を振るっているそうです。インフルエンザの流行や、新型コロナウイルス感染症の再燃も心配です。花粉症と感染症の両方に対し、しっかりとした対策を講じましょう。

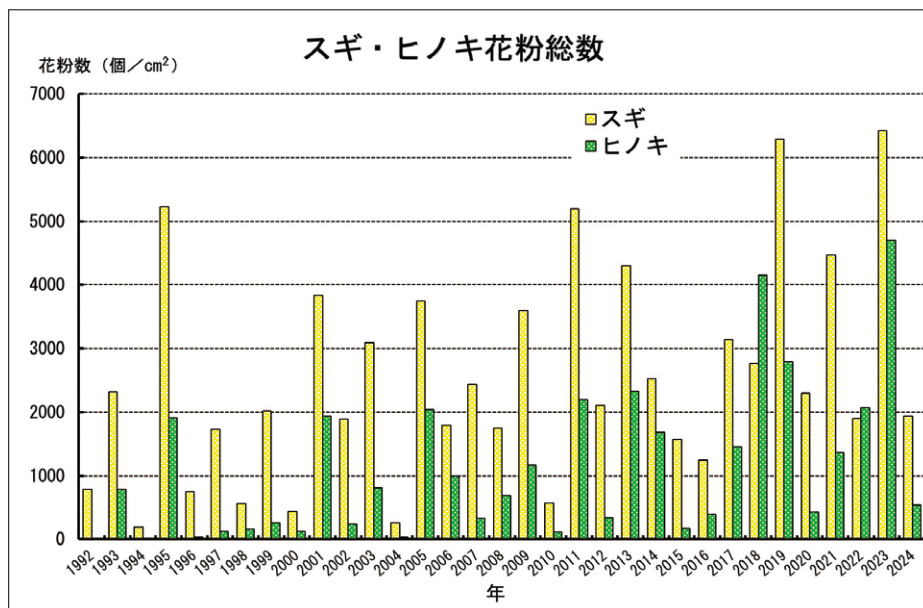


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数 2024

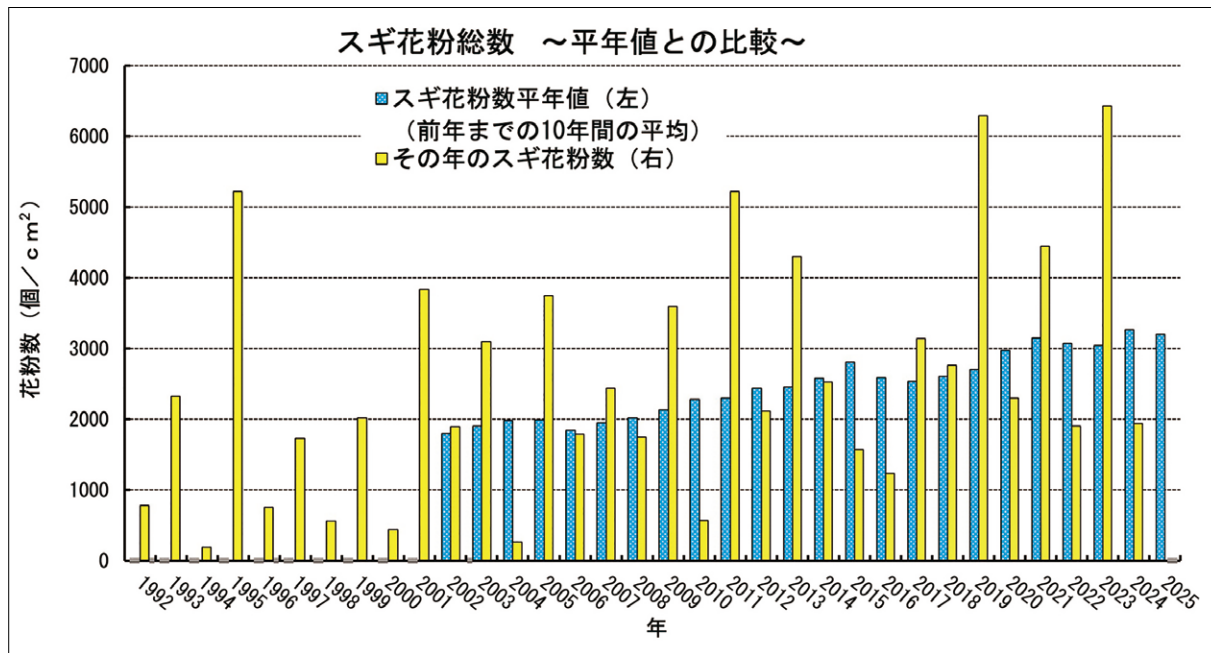


図2 スギ花粉総数と各シーズン前の平年値 (2024年のシーズン終了時)



図3 kzm 地点のスギ (2023 年秋)

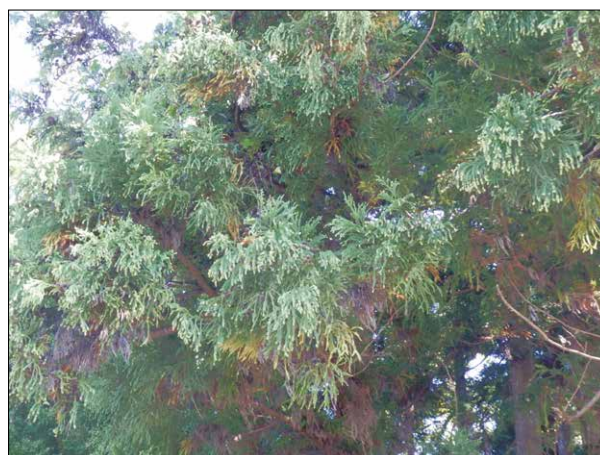


図4 kzm 地点のスギ (2024 年秋)



図5 mt 地点のスギ (2023 年秋)

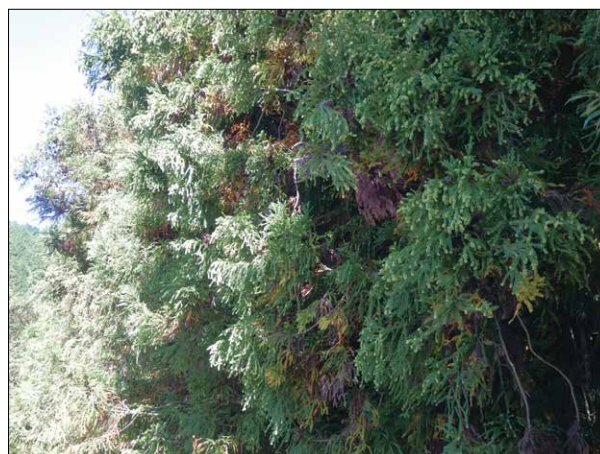


図6 mt 地点のスギ (2024 年秋)



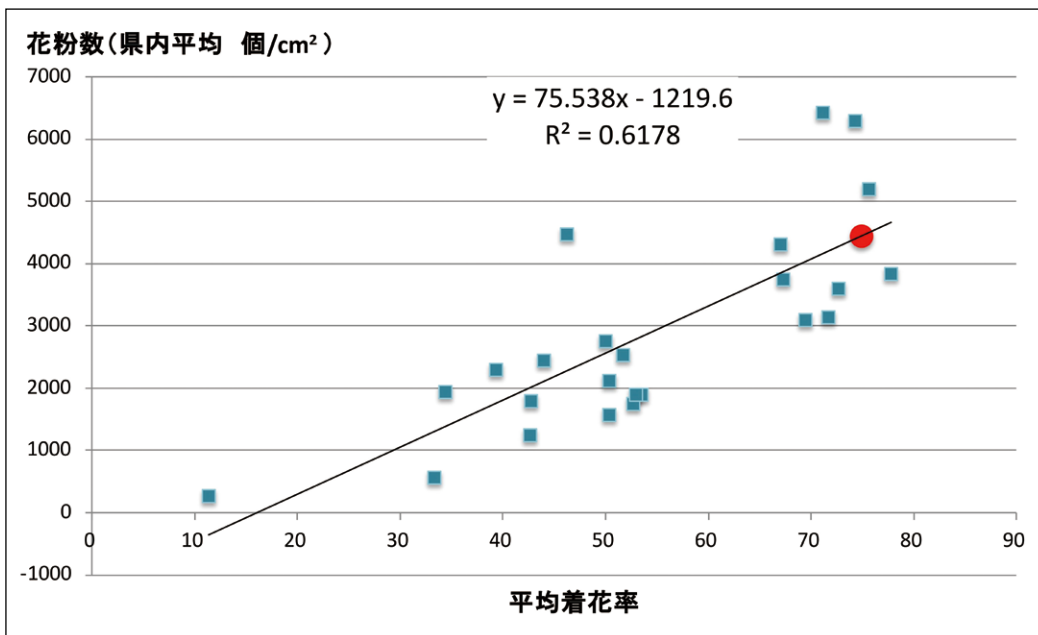


図7 2025年のスギ花粉数予測 (1次回帰)

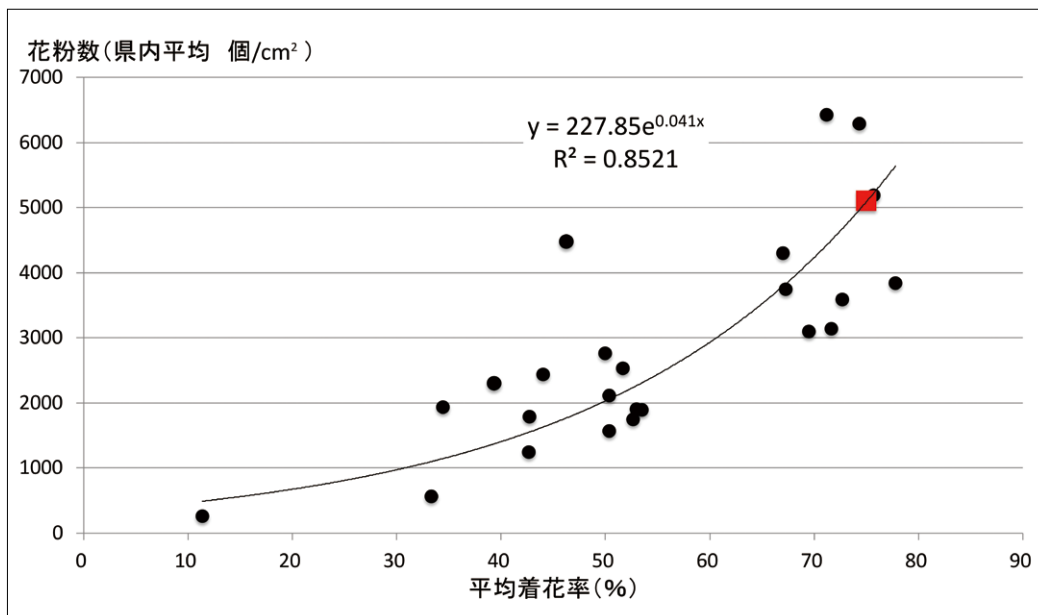


図8 2025年のスギ花粉数予測 (指数関数)



図9 mt地点のヒノキ (2023年秋)



図10 mt地点のヒノキ (2024年秋)